

マスク生活を快適に マスクケース マスクスプレーを作ろう

11月26日(金)午後2時から午後3時

緊急事態宣言により延期となっていた大人の工作会。緊急事態宣言が解除されたことを受けて11月26日に無事実施することができました。



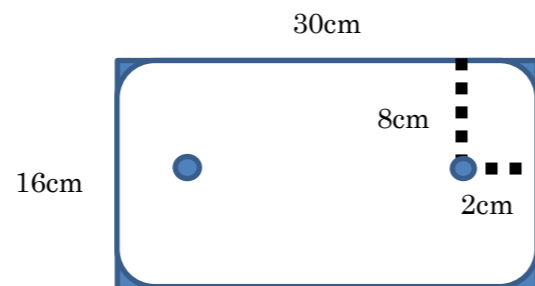
おうちでも簡単に
作れるよ!



新所沢分館マスコットキャラクター
ほたるのあかりちゃん

マスクケースの作り方(右図参照)

1. プラスチックのランチョンマットを(16cm×30cm)切る。
2. ボタン用の穴を2カ所(端から8cmと2cm)あける。
3. 2であけた穴にスナップボタンを付ける。



マスクスプレーの作り方

1. 無水エタノール1mlとアロマを数滴ボトルに入れる。
2. 1に精製水9mlを入れて軽く振る。

編集後記

年が明けて初めての図書館だよりです。寅年なので新しいことにトライして充実した1年にしたいと思います。

まだまだ寒い日々が続きますので、手洗い、うがいを徹底し、体調に充分注意してお過ごしください。図書館も引き続き感染症対策に努めてまいります。本年もよろしくお願ひ致します。(S・E)

読むトコ 第10巻第4号

編集・発行：所沢市立所沢図書館新所沢分館

発行日：2022年2月

〒359-1111 所沢市緑町1-8-3 ☎04-2929-1905

開館時間

火曜から金曜 9時半～21時

土日祝日 9時半～17時

休館日 毎週月曜日・月の最終水曜日

指定管理者 株式会社ヴィアックス

所沢市立所沢図書館新所沢分館 図書館だより

読むトコ

第10巻 第4号 (2022.2)



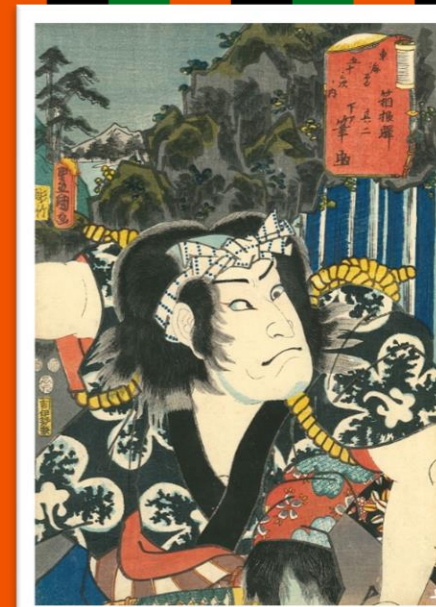
新所階段 Gallery

6月から新所沢分館を出た踊り場、階段スペースにて隔月でテーマを変えて企画展示をおこなっております。

1月より三代目歌川豊国の『役者見立東海道五十三駅』を展示しております。



役者見立東海道五十三駅



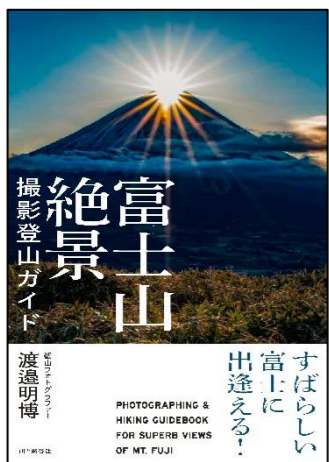
生涯1万点以上の作品を手がけた三代目歌川豊国の晩年の大作『役者見立東海道五十三駅』。目録を含め全140枚からなる本作には、東海道の宿場町の名前にちなんだ歌舞伎の登場人物たちが、役者の似顔絵で描かれています。背景にあるのは歌川広重の『東海道五十三次』であり、当時の人々は地名と人物の見立を解いて楽しんだそうです。

〇〇の日 おすすめ本紹介



2月

2月23日 富士山の日
「富士山」の語呂合わせ。
また、この時期は富士山がよく望めることも理由となっています。



『富士山絶景撮影登山ガイド』
渡邊明博/著 山と溪谷社(291.5/7)
美しい富士山を撮るために、周辺の山へ登る。本書にはフォトグラファーである著者がそうして登った山々から見える富士山の絶景が収められており、コースマップなどのガイド情報も載っています。この本を参考に様々な場所から眺める富士山の写真を同じように撮ることも可能です。ガイドマップとしても活用できますが、写真集としても楽しめる一冊。

3月1日 豚の日
毎年、アメリカで豚を祝う行事が行われていることが理由となっています。

『とんかつの技術』
柴田書店/編 柴田書店(596.33/ト)

豚と聞いて思い当たることといえば、ほとんどが料理関係ではないでしょうか。衣を纏った肉厚でジューシーな美味しいとんかつの極意が載った一冊をご紹介します。揚げ物の基本知識からプロの料理人が作るとんかつまで載っています。様々な店舗のとんかつが紹介されており、料理本としてだけでなく、実際の店へ行きたくなくなってしまふほど食欲を湧かせてくれます。自分で作ってもよし、見るだけでも楽しめます。

3月



4月17日 恐竜の日
1923年4月17日にアメリカの動物学者ロイ・チャップマン・アンドリュースがゴビ砂漠へ向けて北京を出発したことが理由となっています。

『恐竜博士のめまぐるしくも愉快的な日常』
真鍋真/著 ブックマン社(457.87/マ)

国立科学博物館で働く著者が恐竜との出会いや恐竜と共に歩んできた人生についてイラストを交えて語っています。恐竜と聞くと難しく感じてしまうかもしれませんが、本書はエッセイなので恐竜についてあまり詳しくない方でも気軽に読めると思います。もちろん、恐竜好きの方は共感できる部分があるかと思いますが、仕事として恐竜に携わる筆者の話は新鮮です。

4月



今年、一〇周年を迎える新所沢分館。一〇周年にちなみ一〇年前の出来事を紹介しています。最終回のテーマは、「なでしこジャパン ドイツワールドカップ優勝」です。
2011年7月日本女子サッカー、なでしこジャパンはワールドカップ優勝という快挙を成し遂げました。この歴史的出来事に多くの人がテレビの前で歓喜しました。そしてこの出来事を期にサッカーをやりたいという女子が増えました。同時にこの出来事は、同年3月の東日本大震災で落ち込む日本を勇気づけてくれました。
しかし、佐々木則夫監督が就任し結果を出していくまで、なでしこジャパンについて注目している人は少なかつたのではないのでしょうか。なぜこれまでの成績を残し、人々の記憶に残る結果となったのでしょうか。
女子サッカーの日本代表結成は1981年。1989年に女子サッカーリーグ(JLSSL)が始まります。その後、男子サッカーJリーグが発足し、空前のサッカーブームがおこります。男子サッカーが盛り上がる一方、女子サッカー選手は長い間恵まれない環境でプレーしていたそうです。2011年ワールドカップ優勝チームで

第三回『なでしこジャパン ドイツワールドカップ優勝』 あの頃の記憶

キャプテンを務めた澤穂希選手は所属していたチームを解雇されるかもしれないという状況でアメリカに行くことを決意しました。たくさんの苦しい経験をしたベテラン選手がドイツワールドカップで躍進しました。激戦を勝ち抜き優勝した2011年ドイツワールドカップは「澤の大会」だったと言われるほど澤穂希選手は大活躍でした。メキシコ戦でのハットトリックで日本代表歴代最多得点記録保持者となり、スウェーデン戦での逆転ゴール、そして決勝での同点弾。5つのゴールを決めて得点王になり、MVPにも輝きました。
そんな澤選手をはじめとするなでしこジャパンのメンバーから絶大な信頼を得た佐々木監督は2006年に女子サッカー日本代表のコーチに就任し、監督と選手の間を取り持つという役割もしていました。そこで、選手との信頼関係を深めていったそうです。帝京高校でサッカー部のキャプテンを務め、その時に父親から禅の言葉にある「歩歩是道場(ほほこれどうじょう)」という「心掛け一つで、どんな場所も自分を高める道場になる」という意味の言葉を教わったそうです。その後、一般企業に就職した佐々木監督ですが、会社員時代からその仕事の方法はサッカー監督としてのやり方に通ずるものがあつたようです。



「力を引き出す基本はコミュニケーション」と考え、積極的に部下とコミュニケーションをとり、ミスをしてしまった部下に対してはミスを責めることなく「どうしたらできるようになるか」を考えさせたといいます。自分で考えることはサッカーでも会社においてもとても大切なことです。
そんな人柄がのちに監督に就任してからも信頼される要因になったのでしょうか。そんな気さくな性格とは別に、選手たちに世界との戦いで困難な局面に立たされた時にすぐに切り替えができるように、あえて理不尽なトレーニングをすることもあつたようです。
佐々木監督の等身大の飾らないコミュニケーションや選手たちの「勝つ」という強い意志があつてワールドカップ優勝という結果につながつたのでしょうか。ここで紹介したエピソードは次に紹介する本に詳しく書かれているのでぜひ、ご一読ください。

『なでしこ力』
佐々木則夫/著
講談社 (B783.47/サ)



『凜と咲く』日比野真理/著
ベストセラーズ
(783.47/ヒ)

『澤穂希の拓いた道』
森哲志/著 平凡社
(783.47/ヒ)